



# 青島の風

青島日本人学校だより  
平成30年1月5日  
校長 金森 孝子

新年 明けましておめでとうございます。

平成30年の幕が明けました、今年は「平成」の節目の年、2月から3月にかけては、韓国平昌（ピョンチャン）で冬季オリンピック・パラリンピックも開催されます。子どもも大人も、きっと心揺さぶられる大会となることでしょう。今年一年が、子どもたちをはじめ、保護者の皆様、学校運営理事会の皆様にとっても、ワン（！！）グافلな年になりますよう、祈念しております。



今年の干支は「戌」。犬は昔から人間とかかわりの深い動物で、日本のみならず海外においても、物語や小説、映画で、家族の一員、仲間のような存在で描かれることがあります。例えば、日本の昔話の「はなさかじいさん」小学校の国語教材1年「ずうっと、ずっと、大すきだよ」（ハンス・ウィルヘルム作・絵）ベルギーのお話「フラングースの犬」（ウィーダ作）は、愛や命など普遍的なテーマに触れることができるお話です。そのほかにも犬が登場する多くの名作があります。1月は読書週間もありますので、私からは戌年にちなんだ読書を薦めていきたいと思えます。犬にまつわる諺（ことわざ）も多くあります。「犬も歩けば棒にあたる」は、本来は災難に合うという意味ですが、最近では何かをしていると思いがけない幸運に出会うことができる、歩かなければ幸運には当たらないというプラスの意味で使われようになってきています。諺は目標や行動の規準としても活用できます。一年の計は元旦にあり。今年ならではの目標がもてるようご家庭でもご支援をお願いします。

さて、次年度は、国の教育指針である新学習指導要領の準備や移行が始まります。青島日本人学校においても教育課程（カリキュラム）を移行期2年間（小）3年間（中）の中で改善していきます。その教育課程についての説明会を、2月24日（土）授業参観日の業間に図書室で行う予定であります。ご参加の程、よろしく願いいたします。

## 伝統和太鼓の取組

音楽担当 大石 悠靖

古来から日本人に親しまれてきた和太鼓は、日本各地の郷土音楽や盆踊りなどで演奏され、独自の伝統芸能として受け継がれてきました。現在では、小学校からの音楽教育として扱われることも多く、本校でも伝統として特に力を入れ、毎年小学部4年生以上を対象に上級生から下級生へ伝承し続けています。本年度、様々な場面で子どもたちが披露した和太鼓について、紹介したいと思います。

小学部4・5年生は、「御神火太鼓（ごじんかだいこ）」という曲です。この御神火太鼓は、伊豆大島の三原山の噴火を題材にしたもので、2つの打法を用いて演奏します。4年生は「揃い打ち」という打法で、全員が同じリズムで揃って打ちます。5年生は「乱れ打ち」という打法で、2つの太鼓を1人で打ち、かつ速度を3パターンに変えて演奏します。

小学部6年生は、「秋色の空に」という曲です。この曲は元々、鉦打ち太鼓のための独奏曲ですが、今年度は4台の鉦打ち太鼓に、締太鼓と巨太鼓を加え、オリジナルを作りました。子どもたちはこれまでの経験を踏まえ、それぞれのパートの役割を考え、より「正確なリズム」「揃った動き」をめあての一つとして仕上げたので、幾分にも進化した姿が見られました。

中学部は、「信州上田原合戦太鼓（しんしゅううえだはらかっせんたいこ）」という、7分もの大曲です。この曲には楽譜が存在せず、リズムや体の動きはすべて経験者の記憶をもとに、これまで受け継がれてきています。今年度はその伝統に自分たちで考えたオリジナルのリズムを加え、アレンジをしました。締太鼓、鉦打ち太鼓、巨太鼓の3つのパートが絡む調和のとれたダイナミックな演奏が見どころとなりました。

1月13日（土）の日本人会新年会では、小学部4・5年生の有志の子どもたちが和太鼓の演奏を披露します。当日は是非、迫力のある青島日本人学校の伝統和太鼓をご堪能ください。



## 教室の窓

小学部 1年担任 小和田恭子

4月に、保護者に手を引かれ、校門をくぐった1年生の児童たちは、すっかり学校生活にも慣れ、様々なことに対して好奇心を発揮しながら、日々の生活を送っています。生活科「つくろうあそぼう」の授業で作ったおもちゃを使い、12月にお店屋さんを開いた時には、全校児童生徒が遊びに来てくれました。上級生に、自分たちが作ったルールやおもちゃで遊び、喜んでもらったことに、1年生は満足げな表情を浮かべていました。そして、学習活動の中で、1年生はルール作りの大切さについても学習しました。遊び方について揉めた時には、「ゆずってあげるべき」「一人何回って決めた方がいい」「順番を決めてするといい」「相談をする」など意見が出て、自分たちなりに解決策を模索している姿が見られました。じっくり自己主張しつつも相手の意見を聞きながら「皆で気持ちよく過ごすためにはどうしたらよいか」について、日々学習中です。変化する環境や状況に即応し、適切な判断を下せる力をつける為、友達同士関わり合いながら1年生なりに学んでいます。3学期は、1年間のまとめと2年生に向けての準備期間。2月には、新入生説明会も控えています。今までは最小学年でしたが、4月からもうお兄さんお姉さん！身も心も大きく更に大きく成長できるように、気を引き締めて3学期励んでいきます。勉強、運動、遊び、何に対しても全力投球の1年生の児童を、これからもよろしくお願ひします！



## 教室の窓

中学部 1年担任 大林恭子

中学部1年生は、中学部では最多の5名。とはいえ、少人数にはかわりありません。大人に近づいていく多感な時期に、さまざまな価値観にふれてほしいという願いから、道徳の時間に、中学部2年生の胸をかりて同じテーマについて話し合う機会をもっています。自分の考えを必ず述べるという暗黙のルールのもと、その子らしい意見が飛び出します。その立場に立って物事を見つめ、考えていく真剣さには、授業者も感心するほどです。

「〇〇さんが言ったような、そこで悲しむ人の存在には気づかなかったな」「大人に頼らない解決も少しずつできるようにしないとイケないな」授業の振り返りには、自分の考えを広げていく生徒の姿が見られます。

青島日本人学校の特色である少人数のよさと足りなさ、両面を見つめながら、生徒たちの瑞々しい感性を引き出していきたいと思っています。

